

【9】子どもたちの、遊び場についての夢

(9-1) 子どもたちが、あったらいいと思う遊び場 (D群：小学生・D'群：心身ハンディ児への質問)

質問

外にこんな遊ぶところがあったらいい、と思うところはありますか。(5こまでを)
 1:野球やサッカーのできるような広場 2:遊ぶ道具のそろった公園 3:アスレチック広場
 4:土を掘ったりダンボールで作ったりできるあき地 5:くるまの通らない道
 6:木や草のたくさんある山 7:かけっこや花つみのできる原っぱ 8:魚のいる川 9:その他

... 道や広場、川...いろんなところで遊びたい ...

子どもたちに、「あったらいい」と思う遊び場を5つまで選んでもらう質問では、小学生では「クルマの通らない道」が約6割で最も多かった(アンケートの趣旨に答えようという意識が若干作用したのかもしれない)。なお、「道」は、今40~50代より上の多くの人々にとっては、最も身近な遊び場の1つだった。若い世代の人々には違和感のある選択肢と感じられるかもし

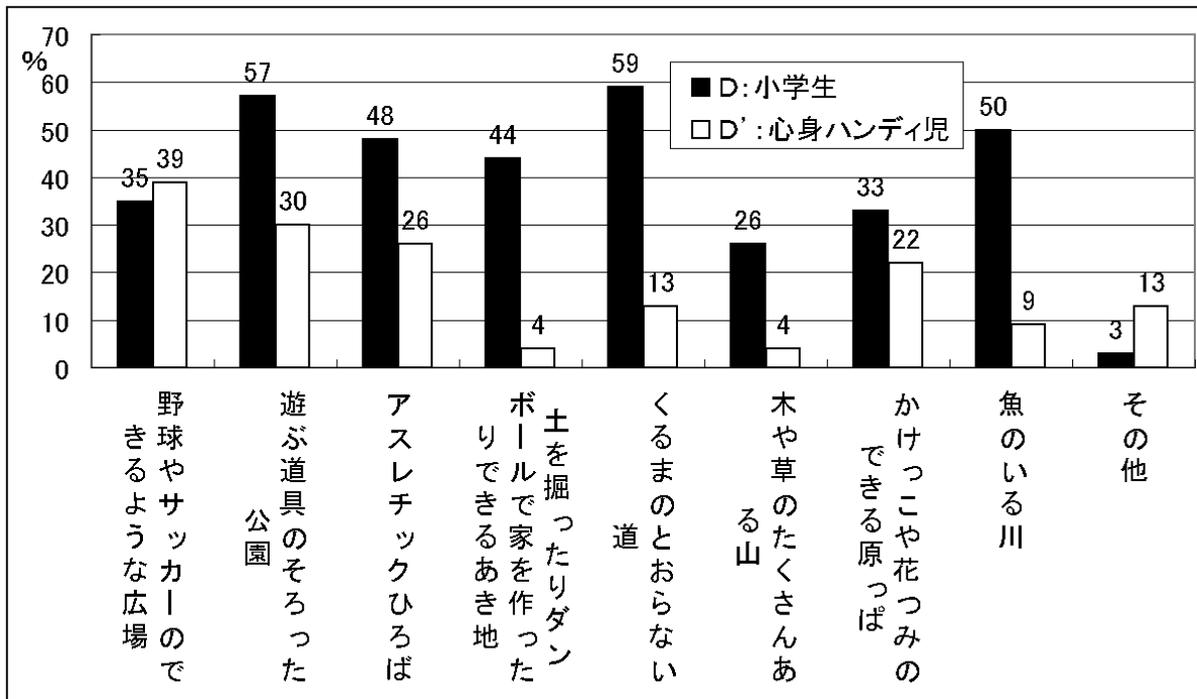
れない)。また、「遊ぶ道具のそろった公園」や「魚のいる川」「アスレチック広場」なども5割前後あった。そのほかの選択項目も少なからぬ得点があり、子どもたちの遊び場に対する欲求や夢はたくさんあるようだ。心身ハンディ児では、道より広場や公園が上位を占めていた。

(図9-1) 小学生らの「あったらいい」と思う遊び場 (D群・D'群の回答)

* 回答は複数選択式。数字は選択した人の割合



子ども自身の回答



* 「その他」欄には、小学生では15件あり「虫のいない山とか広場」「家みたいなあったかくて涼しい公園」「テントで寝る」「魚のいるプール」「木でおうちを作る」「静かなところ」「ひろーいひろーい原っぱ」「なんにもない公園」「アウトドアのできる広い広場」「遊園地」など。

* 心身ハンディ児では「スポーツ公園」が2件のほか、次の1件があり、身体的ハンディを持つ子どもとともに楽しめる場所について考えさせられる。「築山のある公園、坂すべりができる。ゴロゴロころがれる。遊具:車いすの子で使えるものとして、ローラすべり台(低いもの):背あて付ブランコ(体育館横のすり鉢型公園はよいです。が、林の中の散歩は階段なので、皆と行けませんでした。)」

質問 もし車のこない道があったら、何をして遊びたいですか。
(例 : キャッチボール、ペーゴマ、おにごっこなど)

... ボール遊びやかっこ、自転車乗り... 思いっきりしてみたい! ...

子どもたちに、クルマの来ない道があったら何をして遊びたいか聞いたところ、小学生では 3 4 8 名、心身ハンディ児では 1 2 人 (合わせて全体の 8 割弱) の記入があった。複数の遊びを列記した子も多く、遊びの種類は約 7 0 種類にもなった。

遊びを種類で分けるとボール遊びが一番多く、次はおにごっこのようなかけまわる遊び、自転車など乗り物関係の遊び、こまやなわとびなど小道具を使った遊び、と続いている。また、段ボールで家を作る、秘密基地ごっこなどのいわゆるごっこ遊びもあれば、寝っころがりしたい、ただのんびりしたいといった無形の過ごし方も書かれており、子どもたちの想像が自由に、

時には道という空間を超えて広がっている様子が目に浮かぶ。「(自分は)サッカーの練習。妹は自転車の練習」というほほえましい記述もあった。

記述には「いっぱい~したい」「思いっきり~したい」という書き方をしている例がいくつもあった。また、「コンクリートの道路で遊びたくない」という記述もあった。今の道はアスファルト舗装が当たり前になっているが、子どもが飛びはねたりかけ回ったりするにはやさしくない。クルマの心配をせずに遊べるやわらかい土の道や空き地があちこちにあれば、子どもたちはもっといきいきと外遊び・群れ遊びに興じるのではないかと、数々の回答はそんなことを感じさせる。

(表 9 - 2) クルマの来ない道で遊びたいこと (D 群 : 小学生と D ' 群 : 心身ハンディ児の回答)



ボールを使った遊び (2 1 5)	
サッカー	58
キャッチボール	51
ドッジボール	31
バドミントン	28
野球	21
ボール遊び	8
バレーボール	5
テニス	5
バスケットボール	4
キックベース	2
キックボール	1
天下	1

乗り物を使ったりすべったりする遊び (7 0)		子ども自身の回答
自転車乗り	35	
1 輪車	10	
キックボード	8	
ローラーブレード	7	
ローラーズケート	5	
スケートボード	1	
ホッピング	1	
そり	1	
スケート	1	
スキー	1	

走り回る遊び (1 3 6)	
おにごっこ	80
変わりおにごっこ (氷おに、たかおになど)	13
かけっこ	11
リレー	11
かくれんぼ	7
走りまわる	3
どろけい (けいどろ)	3
ぼこべん	3
だるまさんがころんだ	1
すもう	1
ホームラン競争	1
ランニング	1
ノック	1

想像する遊び・自然に触れる遊びなど (3 1)	
段ボールなどで家を作って遊ぶ	4
寝っころがりしたい	4
昼寝	3
本を読む	2
どうろ遊び	2
秘密基地	1
探検隊	1
戦いごっこ	1
恐竜ごっこ	1
領土ごっこ	1
ままごと	1
石で絵をかく	1
一人暮らしごっこ	1
花つみ	1
草や木をいっぱい集める	1
ありさがし	1
草かり	1
散歩	1
心配せずに友達とお話したい	1
ただのんびり	1
道を広く使って遊びたい	1

小道具を使う遊び (7 8)	
ペーごま・こま回し	31
なわとび・長なわ	19
ペーブレード	7
ぶんぶんごま (びゅんびゅんごま)	6
ゴムとび	3
プーメラン	2
かんけり	2
ラジコン	2
皿まわし	2
フリスビー	1
ヨーヨー	1
竹馬	1
カードゲーム	1

その他 (6)	
ない	3
遊びたくない	1
コンクリートの所で遊びたくない	1
探している	1

数字はその遊びを挙げた子どもの数

【 9 】の回答に関連して（会の所感）

遊ぶ意欲の起こる遊び空間を

子どもたちが外で群れて遊ぶなくなるといわれて久しくなりますが、これまでのアンケート回答を見ると、自由に遊べる外の空間が、子どもたちのごく身近な場所から減っていることも要因の1つではないかと感じられます。

子どもの遊び空間について長年調査研究を続けている仙田満さんは、1950年代以降、特に空き地や原っぱ、神社の境内、道などの「機能があいまいで総合的な遊び空間」が激減したと指摘しています。また、1975年頃と1995年頃の調査の比較では、95年の子どものほうが原っぱや田んぼ、安全な道などを求める気持ちが減り、家の中や秘密の隠れ家など室内的空間への依存や興味が高くなっていると報告しています。さらに、遊び空間が75年時より減っているにもかかわらず、遊び空間に対する満足度は高くなっているということです。これは「遊び空間の充実というより遊び意欲の成熟が見られない状況を示すデータと思われる」と仙田さんは記しています 1。

生態学・人類学で知られる河合雅雄さんは、子どもにとって群れて遊ぶことの重要性を説き、「子どもの一番のあそび場である道路が車で占領されてしまったという現状、この問題を打開しなければならない」と著書で述べています。また、幼稚園にも園バスで通い、帰宅後も歩くことの少ない子どもたちの現状を「動物園の檻の中で飼育されている動物たちとあまり変わらない。つまり、子どもの家畜化現象が起こっているということだ」と記しています 2。

遊びは子どもにとって不可欠な心身の栄養です。遊ぶ時間の回復とともに、遊び意欲をかきたてられる空間を生活の身近な場所に再生していくことの必要性を、考えさせられます。

* 1 参考：『日本における1975年頃から1995年頃の約20年間におけるこどものあそび環境の変化の研究』仙田満・三輪律江・岡田英紀・渡辺拓・矢田努 「都市計画211」1998Vol.46/No.6 （社）日本都市計画学会）

* 2 参考：『子どもと自然』河合雅雄著 岩波新書



40年前の道は、土の匂いがする道。ころんでも痛くなかった...